

「変わりたい」が社会を変える

井ノ久保 里沙

皆さんは、変わりたいと思った瞬間はありますか。

わたしはこれまでの人生の中で2度あります。そしてそれはすべて、私の人生において大きな転換期となりました。

まず一つ目は、コロナの流行です。わたしが大学3年の冬、その瞬間は突然訪れました。海外留学を夢見て入学した大学でしたが、あっけなくその道は途絶え、絶望に打ちひしがれました。しかし、その逆境があったからこそ、逆に自分が変わるチャンスだと思い、県内就職を考えていた私は、思い切って上京することを決めました。極度の人見知り、心配性、方向音痴の私にとって、東京で就職することは無謀とも言える決断でした。実際、2年間社会人生活を経験した中で、様々な出来事がありましたが、普段では経験できないようなこともたくさん経験でき、良かったことも悪かったこともすべて今の自分の糧となり、前の自分と比べて大きく成長できたことから、決して無駄なことは一つもなかったと、今は胸を張って言えます。これはすべて、あのとき勇気を出して一歩踏み出した自分のおかげだと思っています。

次に、二つ目は女性消防団への入団です。地元に戻って日之影町役場に出入りし、日々の生活を送る中で、あらゆる面で消防団の活躍を目にする機会がありました。例えば、令和6年8月の台風10号の接近時には、消防団員が身をけずる思いで率先して、避難所の運営をする姿や、火災発生時には出動要請を受けた直後に一斉に現場に駆けつける姿を目にしました。これまでいろいろな面で助けてもらった消防団への感謝や町民の生命・財産を守るためにも、女性である自分にも何かできることがあるのではないかと思い、女性消防団への入団を決意しました。入団するにあたって、不安が全くなかったわけではありません。むしろ、「活動といっても具体的にどんなことをするのか」「本当に自分に務まるのか」など、次から次に不安要素は浮かび上がってきましたが、自分を変えるため、人の役に立つため、再度勇気を奮い立たせ、日之影町女性消防団のメンバーと共に頑張りたいと思っています。

私たちは今、様々な社会問題に直面しています。誰でも、今置かれている環境に疑問や課題を感じ、このままではいけない、変えないといけない、という思いを抱いているのではないのでしょうか。2025年の参議院選挙の投票率は58.51%で、2022年の参院選の52.05%を上回りました。18歳、19歳の投票率は41.74%で、こちらも2022年の参院選の35.42%を上回りました。若者の政治への関心は高まってきているように思います。

「変わりたい」「変えたい」という一心で踏み出した小さな一歩は、自分の毎日を少しずつ、確実に動かしていきます。自分の行動一つで、少しずつ結果が変わっていくのです。一人一人の行動は小さく見えても、集まれば流れを変える大きな力になります。選挙の一票もそうです。「たった 1 票で何が変わるのか。」と思うかもしれない。しかし、政治はその 1 票の積み重ねで方向性が決まります。私が変わりたいと思った瞬間を大切にしたように、社会をどう変えたいかを示す手段である、あなたのその 1 票を軽く扱わないでください。皆さんも、自分の 1 票の価値を軽んじずに、投票という政治参加を通じて、自分の貴重な意見を伝えてみてはいかがでしょうか。

若者が社会を変える。

自分たちが声を上げれば、社会は変えられる。